

第2次裾野市環境基本計画の評価結果（令和4年度進捗状況）

1 概要

第2次裾野市環境基本計画の令和4年度進捗状況について、裾野市環境審議会にて評価を実施した。（審議会委員7名中、6名出席）

実施日時：令和5年11月17日（金）9時30分～11時40分

場 所：裾野市役所4階402会議室

2 評価方法

（1）環境目標ごとに以下の採点基準に基づき、委員が採点を行った。

<採点基準>

評価点	進捗状況
3点	環境目標（R7年度）を達成するために、順調に進捗している
2点	一部遅れはあるものの、目標の達成が見込まれる
1点	より一層の推進を要する

（2）各委員の評価点の合計を平均し、以下の評価基準に照らして環境目標ごとに評価を行った。

最後に、5つの環境目標の評価点の合計を平均し、令和4年度進捗状況の全体評価を行った。

<評価基準>

評価点の合計の平均	評価区分	進捗状況
2.5点～3点	A	環境目標（R7年度）を達成するために、順調に進捗している
1.5点～2.4点	B	一部遅れはあるものの、目標の達成が見込まれる
0点～1.4点	C	より一層の推進を要する

3 結果

5つの環境目標の評価点の平均は2.5点となり、令和4年度進捗状況の全体評価は「A」となった。

環境目標	平均	評価
<p>1【安全・安心】 安全・安心で快適な環境のまちづくり</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下水道普及率や水質汚濁に係る環境目標達成率は令和7年度の計画目標達成に向けて取組みが行われている。一方、「市民1人1日平均有収水量」については抜本的な対策を実施しなければ、目標達成は困難と考える。または、目標値について現状を取り巻く環境を考慮し、再考する必要がある。 ○概ね目標値に向けて順調に進んでいる。コロナ明け後、これからの河川清掃等の参加者数が一層増えていくことを期待したい。 ○人の集まる行事への参加者数を増加させるため、今後、更なるPR等が必要である。 ○各施策が改善傾向にある。 ○環境指標の大気汚染に関する苦情件数は、一般的な野焼きと農作業に伴う野焼きを区別した方が良いのではないかと。 	3.0	A
<p>2【自然共生社会】 豊かな自然と人が共生するまちづくり</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市公園の整備面積の増加に向けた対応が必要である。 ○「まちなみや自然景観の美しさ満足度（市民意識調査）」が低いため、裾野市が目指すまちなみや自然景観を明示できる施策が必要である。 ○その他の項目については、目標達成に向けた取組みが行われている。 ○「豊かな自然環境」を肌で感じられる環境づくりに向けて、これからも各種施策を実施してほしい。 ○景観維持のための活動や清掃活動への参加人数の減少により、目標達成は厳しい状況にあるが、地道な活動が必要である。 ○市民意識調査結果の深掘りと対応策が必要である。 	1.8	B

<p>3 【循環型社会】 環境負荷の少ない循環を基調とするまちづくり</p>	3.0	A
<p>(意見) ○すべての項目において計画達成に向けて取組みが行われている。 ○ごみの排出量が減少傾向にあることは大変喜ばしく、市民一人ひとりの意識づけが進んでいるのではないかと。 ○ごみの減量化については良く実施できている。今後も継続して減量化に向けたPRを進めてほしい。 ○全項目で目標を達成している。</p>		
<p>4 【脱炭素社会】 地球温暖化防止に努めるまちづくり</p>	2.5	A
<p>(意見) ○社会情勢の急激な変化により、計画達成が困難となる項目がある。ライフサイクルアセスメントの観点から計画内容についても検討する必要がある。 ○目標を達成するには長期的な視点が重要な項目である。その点を考慮した上で、着実に進歩していくことを期待したい。 ○蓄電池システムや燃料電池システムの「補助件数」を「導入件数」とした方が推進の状況が分かるようになるのではないかと。 ○温室効果ガス排出量の目標を達成できており、その他の施策も改善傾向にある。</p>		

<p>5【環境教育】 持続可能な社会を実現するための人づくり</p>	2.0	B
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の社会変化の中で、参加者数を指標とした目標は達成が困難な状況であるが、全般的によく取り組まれている。 ○開催件数等でも、しっかりとした対策がされないと評価は向上しない。 ○回数や団体数等での指標となるので数字的には達成率が低いですが、活動の結果を評価する点も取り入れてみたら良いのではないかと。また、指標や目標値の再検討も有りなのではないかと。 ○環境教育は非常に大事なことで、環境に関する啓蒙活動の一環として力を入れて行ってほしい。 ○活動の成果が見えにくいため、開催数や団体数といった指標の設定を変えた方が良いのではないかと。 		
<p>第2次環境基本計画 令和4年度進捗状況（全体評価）</p>	2.5	A